

黒部を未来へつなぐ

まさゆきの8つの想い

1. 観光地整備と情報発信力の強化
2. 住み続けたいと思えるまちづくり
3. 安心・安全なまちづくり
4. 都市基盤の整備
5. 人口減少時代のまちづくり
6. 災害に強いまちづくり
7. 働き場所のあるまちづくり
8. 生き活きと生活ができるまちづくり

3. 市長から提案されたお金の使い方やきまり（ルール）などの説明を聞き、その内容が本当にわたしたち市民のためになるのかどうかを審議（チェック）する。

2. 行政の取組を調査し、市民生活がより良い方向になるように市へ働き掛ける。

平成26年11月より、黒部市議会議員としての任期が始まり半年が経過いたしました。皆様にお寄せいただいたご期待に、身も引き締まる思いです。

信託いただきました4年間、現在の私たちの暮らしと未来を担う子どもたちのために、黒部市に任んで良かった、これからも住み続けたいと思えるような地域になるように多くの意見を吸い上げて市政に届けていきます。

◎ご挨拶

成川 正幸（なりかわ まさゆき）



北陸新幹線黒部宇奈月駅周辺施設等完成式

◎市議会議員の役割をしっかりと意識しながら活動を進めていきます。（議員の仕事とは）

1. 市民から出された、市の仕事で「こうしてほしい」と思っている願いや意見を聞き、市民と行政とのパイプ役として意見を市政に反映させる。

平成27年度予算

一般会計	220億4,300万円
特別会計	63億6,593万円
（国民健康保険、後期高齢者医療、牧場事業など 計7事業）	
企業会計	206億8,465万円
（病院、水道、下水道事業）	
合計	490億9,358万円

◎起債残高と交付税措置見込額（平成27年度末）

- ①借入現在高見込 315億2,362万円
 - ②交付税措置見込 203億4,788万円
 - ③純粋な黒部市の借金 111億7,574万円
- （①ー②）



富山県首都圏本部で東京の情勢をお伺いしました！



黒部は今、分岐点！ 先人の努力を次世代へつないでいきたい。

黒部市議会議員
なりかわ

成川まさゆき

facebookで活動公開中！



【黒部市議会 一般個人質問】

【12月定例会】

住民が地域に誇りと安心して、また子どもたちが夢を持って生活できるように質問を行います。

1. 立山黒部ジオパーク推進について

問 ふるさと教育について、学校・生涯学習の取り組み。

答 小学校5・6年生を中心に配布済みのリーフレット「もつと知ろう。もつと学ぼう。高低差4000mふるさと富山の大自然」を活用して、豊かな自然の再認識を図っている。今後も歴史民俗資料館で企画展など、吉田科学館において親子教室の開催を計画している。学校においても総合的な学習の時間やブランチルーム体験活動等の諸活動に、ジオパークの視点も重ねて「ふるさと大好き」な児童生徒の育成に一層努めてまいりたい。

問 ジオパークの地理・地形の学習を地域防災につなげてはどうか。

答 ジオパークを学ぶことは、防災や減災に重要な役割を果たすものと考えている。今後、講演等には、積極的に各地区の自主防災組織にも参加を呼びかけ、防災意識の醸成に活かすとともに、講演会等において習

得した知識を防災訓練や出前講座に活用していきたい。

問 ジオパーク推進を自治体内の各課横断型で行ってはどうか。

答 自治体組織内部として横断的に対応する部分も重要となるので、「まちづくり戦略推進会議」等において議論しながら、既存事業にジオパークの理念を取り入れ、積極的に施策への活用を進めていきたい。

問 ジオパーク支援自治体として今後のスケジュールは。

答 産業や教育などの施策にジオパークの特長を活かしていくとともに「黒部市地域観光ギャラリー」をエリア全体の玄関口・拠点施設として整備するほか、ジオパーク推進協議会事務局への人的支援を強化するなど「世界ジオパーク認定」に向けて最大限努力していきたい。

2. 東京オリンピック・パラリンピックについて

問 東京オリンピック・パラリンピックの合宿誘致を。

答 世界のトップアスリートとスポーツを通じて交流を深めることは地域が活性化するとともに、次世代を担う子どもたちに大きな夢と感動を与え、地域スポーツの振興・発展に

も大きく寄与するものと考えている。本市は、北陸新幹線開業で東京へのアクセスが格段に良くなる事から条件が合えば合宿地としての役割を十分に果たせるものだと考えている。今後、応募要項の内容を吟味するとともに、県や他市町村の動向にも注視しながら検討していきたい。



ジオパークとは？

「ジオ (geo)」は、地球や大地という意味の接頭語で、ジオパークとは、科学的に見て特別に重要で貴重な、あるいは美しい地質遺産を含む一種の自然公園です。

地質や地形は、地球の歴史を物語っているだけでなく、人の暮らしや文化に直接結びついています。この大地の営みをひとつの遺産として学び、楽しむのがジオパークです。

【3月定例会】

◎選ばれる地域を目指して、観光振興と定住・移住促進について質問を行いました。

1. 観光振興について

問 ジオパークを観光振興にしてはどうか。

答 黒部・宇奈月温泉観光局がジオパークの拠点になる地域観光ギャラリーを管理することで、ジオツアーの造成、さらには現地に足を運んでもらうための案内機能が向上するものと考えている。

問 観光団体の事業明確化で効率の良い取り組みをしてはどうか。

答 様々な組織・団体の力を結集し、連携していくことが大切である。行政は中心となり、ビジョンや方向性を示し、施設整備を行う。観光局には様々な施策や事業が最大限に効果を発揮するように、その推進役・旗振り役となる事を期待している。旅館協同組合や観光事業者の皆さんには、おもてなし力に磨きをかけるなど、常にワンランク上を目指していただきたいと考えている。新幹線開業を契機に地域力を結集し、しっかりとした推進力でこのチャンスを活かしてまいりたいと考えている。

問 ふるさと納税の謝礼品に観光商

皆様のご意見をお気軽に是非、お寄せください。

<後援会連絡先> 成川正幸 (なりかわ まさゆき) TEL(0765)57-1189
黒部市植木107-7 FAX(0765)57-1189
携帯090-1317-7155 Mail: masa.narikawa@gmail.com

品の導入をしてはどうか。

答 平成27年度より100万円以上の寄付者に対して、宇奈月温泉等での宿泊優待を選択肢に設ける方針である。その他にも「黒部ファン」になっていただくための良い機会と考えられることから、状況を見極めながら検討を加え進めてまいりたいと考えている。



「富山くらし・しごと支援センター（東京有楽町）」で、定住・移住促進などの動向をお伺いしてきました。

2. 定住・移住促進について

問 定住・移住をしていただくためにホームページなどの発信を強化してはどうか。

答 本市の自慢すべき特長はもちろん、移住判断の基礎となる「求人情報」「子育て等の「福祉施策」をはじめ、「くらしたい国 富山」の交流サイト「定住・移住体験談」情報との連携などにより、コンテンツを整理・充実させるとともに、定住・移住希望者の皆様にホームページを見ていただけるよう、「観光・レクリエーション情報」「新幹線開業による利便性」「災害が少ない」などの情報を付加し、地域の優位性を高めるように、総合的な工夫を図ってまいりたいと考えて

いる。

問 郷里会（東京黒部会他）との連携を強化し、サポーターやファン拡大を進めてはどうか。

答 定期総会等の機会を捉え、引き続きPRに努めてまいりたい。郷里会の皆様方など県外に住んでいる方ならではの、黒部市民が気づかないような黒部の良いところ、素敵なところを情報発信してもらえよう、今後とも連携を深めてまいりたいと考えている。

問 情報インフラと公共施設整備の整備の状況は。

答 整備の状況については、「選ばれざるまち」であるための重要な条件の一つであると認識している。現在、携帯電話については、主要キャリア3社とも、市内可住地は、ほぼ100%カバーしており、今後は県内多数の観光地でありながら不感地帯となっている黒部峡谷鐘釣・黒薙両エリアカバーが残された課題であると考えている。公共施設整備の整備については、あいの風黒部・生地駅、新幹線駅周辺の地域観光ギャラリーや地鉄新黒部駅などを整備、秋完成予定の新黒部庁舎でも行政棟1階エントランスホール付近と4階の議場周辺、交流棟2階のカフェを含む市民利用スペース付近で予定している。

問 移住者を選んでいただくため、黒部市として他地域にない強みは何か。

答 豊かな自然や食と文化・産業活動があります。

施策においても「住環境関連制度」「子育て・教育環境の充実」「市民病院の改築」「雇用機会の確保」などの移住に関する環境整備を図るとともに、北陸新幹線の開業を契機として他の自治体に対する優位性を訴えるなど、選ばれる都市としての事業を推進しているところである。

富山市八尾大長谷地区 クラインガルデン 滞在型市民農園



クラインガルデンとは、ドイツで盛んな200年の歴史をもつ農地の賃借制度。日本語に訳すと「小さな庭」であるが、「市民農園」もしくは「滞在型市民農園」とも言われている。一区画の平均面積は100坪程でラウベと呼ばれる家屋があり、そこで家庭菜園やガーデニングが行われている。別荘、セカンドハウス感覚で借りる人やグループで借りる人もいる。プチ田舎暮らし・スローライフをしてみたい人に最適です。参考資料 / 大長谷・山里だよりHP

問 お試し田舎暮らしというコンセプトで宿泊付市民農園の整備を進めてはどうか。

答 「スローライフ」「田舎暮らし」といった取り組みがマスメディアで注目されており、首都圏でも田舎での暮らしに興味・関心を持つ人が増えてきているとの事であり、本市としても研究していきたいと考えている。



私が
議会で質問させて
頂きました。

黒部市議会は今！

現在、黒部市議会では議会基本条例の12月制定に向けて取り組んでいます。

地方分権が進む中において、市町村が自主的な決定と責任が益々求められています。

市長と議会という二元代表制の1翼を担う議会の役割と責任は、以前に比べ大変重要なものとなってきています。その為、今まであまいだった部分などをきっちり取り決めることや情報公開を推進していくなど、市民に分かりやすく開かれた議会の実現を目指しています。

なりかわ

黒部市議会議員

成川まさゆき facebookで活動公開中！





まさゆきの8つの思いノート

1. 観光地整備と情報発信力の強化

待ちに待った北陸新幹線が開業しました。
今までの経験を活かし、黒部の魅力を最大限に
発揮できるように取り組みます。

2. 住み続けたいと思えるまちづくり

住み続けたいと思うためには、住んでいる地域を
好きになる事。好きになるためには“知る”事です。
故郷教育を推進し、地域愛の精神を育むように取り
組みます。

3. 安心・安全なまちづくり

新幹線開通で他地域から多くの方が市内に入ってくる
ことが予想されます。今まで以上に、交通安全・防犯
の強化に取り組みます。

4. 都市基盤の整備

新幹線時代…。未来を見据えた都市計画が必要です。

5. 人口減少時代のまちづくり

今、人口減少が大きくクローズアップされています。
私たちの住んでいる黒部市は大丈夫なんでしょうか？
黒部の未来を見据え、今から考えていかなければなり
ません。住んでみたいまちづくりで人口減少時代に
抱える問題に果敢に取り組みます。

6. 災害に強いまちづくり

地域活動の活性化で迅速に情報伝達ができるように
取り組みます。

7. 働き場所のあるまちづくり

「生活できる＝稼ぐことができる」環境整備に努めます。

8. 活き活きと生活ができる地域に

まちに住んでいる人が「生きていくための活力を得る」
ことが地域活性化だとすれば、人々が繋がり、
楽しいことを増やしていける環境づくりに努めます。

成川まさゆきは走り続けます

昨年、日本の人口減少社会が話題になり、
地方創生が始まりました。

私たちの住んでいる黒部市も北陸新幹線が開業し、
首都圏との時間的に近くなりました。

交流人口の増加で、人の流れが変わり、私たちの暮らしも
間違いなく変化していきます。

生活環境が変化していくという事は、新しく問題課題が
出てくるという事です。

そういった時だからこそ、誰もが住みやすい、生き心地の良いまち
・社会になるように未来を予測しながら今の暮らしをどうしていくのか、
真剣に考えて行動していかなければいけないと考えています。

今後どんな風になろうと黒部市に住んでいる私たちが先人たちから引き継がれた
地域の誇りと文化のバトンを次の時代にしっかり渡す。

そういう強い思いで次の6月定例会も質問いたします。

今後ともよろしく願いいたします。

成川まさゆき

まさゆき's
編集記



なりかわ facebook で活動公開中！

成川まさゆき



なりかわ

成川まさゆき後援会

〒938-0014 富山県黒部市植木 107-7

TEL & FAX (0765) 57-1189

Mail/masa.narikawa@gmail.com